



# どうして？どのくらい？ 小学校文学教材から 二項対立のある疑問づくりと解釈の更新

はじめに

文部科学省は、言葉による見方・考え方を働かせて育成する国語に関する資質・能力について3つの項目を述べている。その1つに、「創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や情緒を養い、日常生活における人との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。」(2016 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」より)とある。

本実践は、物語を読んで考えた「二項対立のある疑問」を土台に、児童それぞれが物語の中からこだわりたい疑問を選び、その疑問の解決に向かって物語の理解と新たな疑問の更新を行っていく「学習の個性化」を目指した実践である。自分が理解したことや発見したことを自分なりの言葉で詳しく語れるように考えを深めていくといった単元を通じた課題選択学習を行うことで、主体性を高めながら豊かに文学教材の読むことの「精査・解釈」の集団学習に取り組むことができると考えた。また、この「二項対立のある疑問」は、教師にとっても物語への理解が深め、教材研究や授業づくりに生かすことができる価値のあるものだと考える。今回は、令和6年度に指導を行った5年生の「注文の多い料理店」と「大造じいさんとガン」の実践を紹介する。

単元を通して  
つけたい力



「—の—に、どうして—？」



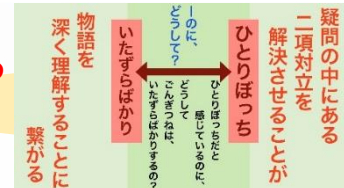
「—と書かれているけれど、  
どのくらい—？」



## 第1次

- ①2種類の型の二項対立のある疑問をつくって、共有する
- ②単元を通して、自分なりに疑問を解決する中で、自分の考えをくわしくしていく！(第3次で文章にする)

二項対立のある  
疑問づくり



「大造じいさん  
とガン」

「注文の多い料理店」  
児童が考えた疑問

疑問の価値付け  
理解と疑問の更新

共有した疑問は  
全部で219個！



疑問 PDF



共有した疑問は  
全部で255個！



疑問 PDF



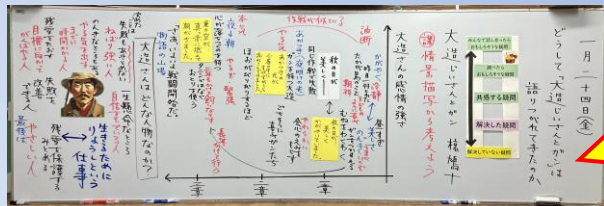
児童の疑問をもとに、教師も教材研究を行い、授業づくりに生かす！

どうして「大造じいさんとガン」は  
語りつがれてきたのか

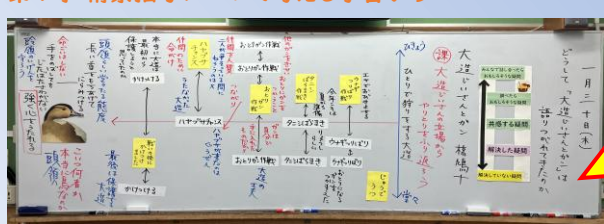
## 第2次



板書



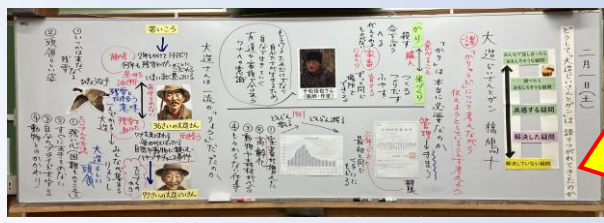
第4時 情景描写について考える学習から



第6時 人物の行動について考える学習から



第7時 物語の結末について考えるから



第8時 狩りと前書きについて考える学習から

班活動で疑問の交流と更新

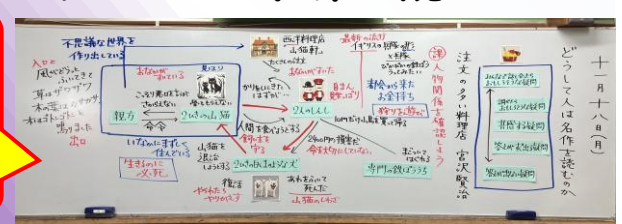
疑問について考える  
課題選択学習を  
集団学習に繋げていく！

1000字を超えて  
表現する作品も！

自分なりの解釈を600字以上でまとめる

どうして人は名作を読むのか

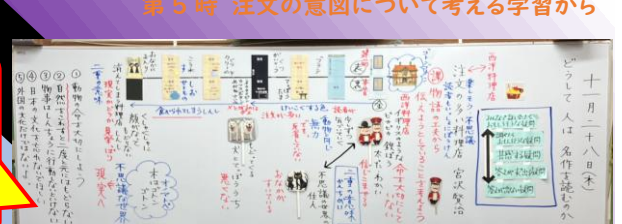
何か食べたい  
と何回も  
言っている  
けれど、  
どのくらい  
お腹が  
空いて  
いたの？



第2時 人物関係について考える学習から



第5時 注文の意図について考える学習から



第7時 物語の工夫と効果を考える学習から

## 第3次



児童の作品

おわりに

本実践では、言葉を基に二項対立のある疑問や量感や質感を意識して物語の世界を想像させることで、児童が言葉による見方・考え方を生かして精査・解釈することができる考えた。実際に、集団学習の場でも児童の新たな気づきから学習が展開されていく様子が多く見られた。また、単元終了の自分なりの解釈をまとめた文章からも、児童によってそれぞれ異なる広がりのある内容で、1000字を超えた字数でまとめようとする熱心な様子も見られた。多くの疑問の中から自分にとって価値のある疑問を理由とともに選び出すことができる児童の感性をさらに育成することによって、探究のプロセスと児童の思考・判断・表現する力が結び付き、課題設定学習の有効な場になると考える。

来年度は、二項対立のある疑問づくりからの交流とともに、児童それぞれの自己選択の機会を多く設定しながらより充実した指導ができるよう国語科の研究を行ってきたい。